

2010年も合言葉はホ・ジ・ロ・バ!



活動報告

- 12月20日 福井市都市マスタープラン説明会
25日 中部運輸局地域コーディネーター会議
(林照翁出席)
1月15日 例会・理事会

今後の予定

- 1月17日(日) 臨時理事会
21日(木) 福井JC年賀会(内田出席)
1月中予定 居酒屋電車(福井鉄道)

ゆうじんの部屋 書籍紹介 (副題) 私はなぜ九州新幹線に金箔を貼ったのか? 水戸岡鋭治 著 交通新聞社新書 800円+税

デザインとは何か。それを知らなくてもぐいぐい引き込まれる社会論、地域づくり論、おもてなし論である。政治家が読めば政治論にもなる。自分が快感を得るのはどのような場合か、それを実現するためには「空気」を読むのも大切だが「空気」を作ること。お茶くみから金箔まで。

私は「空気」を作る戦略をデザインと言うのかなと理解しました。どんな仕事をしている人にも、家事にもすばらしいヒントを与えてくれる書だと思います。もちろんJR九州の車輛デザインに興味のある人はこの本を買うでしょうが、誰が読んでもためになる本です。

祝富山市電環状線開業 セントラム（CENTRAM）登場

松原光也

2009年12月23日、心待ちにしていた富山市内電車の環状線が開業しました（写真①）。短期間での準備に心配されていた工事も順調に進みました。2006年4月にポートラムが開業して以来、富山の次はどこでライトレールが開業するかと楽しみにしていたが、結局、富山の次は富山でした。環状線は丸の内交差点から西町交差点までの約940mに軌道の新設し、既存の市内線と結んで循環運転されます。1周は3.4kmを約20分で反時計回りに走り、日中は10分間隔、早朝と夜間は20分間隔で運転されます。料金は200円均一で、環状線と市内線との乗換えの際には乗継券が発行されるため、追加料金は不要です。

環状線は建設費約22億円、車両3編成で約8億円の計約30億円（市約17億円、国約13億円）で、富山市が施設整備（下）、富山地方鉄道が運行（上）を行う上下分離方式（公設民営型）で運営されます。軌道の上下分離方式は富山市が全国初となります。環状線を走る車両の愛称は「セントラム」で、ホワイト、シルバー、ブラックの3色の車両が走ります。富山ライトレールとの対比でモノトーン（無彩色）が採用され、富山らしさの「自然・風土」、「未来」、「歴史・伝統」が表現されています。それぞれ、ホワイトは「高貴・清楚」、シルバーは「先進性・モダン」、ブラックは「品格・重厚」というイメージを表しているそうです。

23日は13時から富山市民プラザで開業式典が行われ、14時から発車式が行われました（写真②）。富山市長、富山県知事、富山地鉄社長らがテープカット後、セントラムに乗り込みました。一般へは15時から試乗会が行われ、市民に無料開放されました（写真③、④）。開始直後は約500人が列に並び、子供たちも笑顔で新しい車両に乗り込んでいました。3色のうち、採用前に物議をかもしていた黒が一番人気のようで、高級感が受けているのでしょうか。開業に合わせ、大手モールは17時まで歩行者天国となり、屋台も出店してトランジットモールのようにぎわいをみせていました（写真⑤）。夕方になると、商店街の協力で青竹の燈籠に火がともされ、和やかな雰囲気を演出していました（写真⑥）。

24日は通常運行が始まり、買物客が富山駅前からグランドプラザまで利用していました（写真⑦）。2編成が10分間隔で運行し、お互いの位置を連絡し合っているようですが、どうしても団子運転状態になるようで、13時頃には4分、16分間隔になっていました。国際会議場前からグランドプラザ前までしか時間調整をすることができないので、一方が富山駅前を出発するまでは、もう一方はグランドプラザ前を出発しないようにするなど徹底しないと、いつの間にか連結運転になってしまうおそれあり！

環状線開業にあたって森市長は「交通インフラを先行投資して、まちのにぎわいにインパクトを与えたい」と仰っていました（写真⑧）。富山ライトレールの開業と中心市街地活性化事業（住宅助成、総曲輪フェリオ、グランドプラザの整備）により、中心部の人口は減少から横ばいへと変化しているようで、来街者の増加と公共交通の利用増という相乗効果がみられるか期待したいところです。パリのベリブなどで注目されている都市型レンタサイクル事業や環境モデル事業も本格化し、交通インフラの整備も北陸新幹線開業後の市内線と富山ライトレールを富山駅高架下で接続、上滝線のライトレール化、環状線の複線化などの計画や構想があるそうです。



富山市内環状線路線図（パンフレットより）



①CENTRAM3色連結？



②発車式でのテープカット



③試乗会は長蛇の列



④試乗会の車内は市民らで一杯



⑤トランジットモールのような
にぎわいとなる大手モール



⑥商店街の協力により燈籠で
ライトアップ



⑦総曲輪フェリオの前でできた
グラントプラザ前電停



⑧テレビのインタビューに答える
森富山市長

富山市電環状化、開通式レポート

富山県会員・善光 孝

12月23日（水祝）、富山市電の環状線が開通しましたので、ご報告を。

午前10時頃から大手モールが歩行者天国になり、開業後にはありえないと言われる3両の新型車両（セントラム）が集結しました。露店や案内所も立ち並び、大勢の市民や県内外からの見物客が押し寄せました。出発式までは撮影会。みな、思い思いの場所で記念撮影。車両は、黒、銀、白の3両ですが、前評判の一番悪かった黒色の電車が、ふたを開けてみれば一番人気。搬入された時、車庫の片隅で心配そうな顔をしていた黒色電車君も、白電車、銀電車よりもはるかに多い人たちに囲まれ、ちょっと誇らしげでした。

その内、森富山市長も来られ、声かけを。おめでとうございます！オー、どうもどうも！前副市長の笠原さんもお見えになっておられました。久しぶりですね。いや～、最初はこんなに早く開業出来るとは思わなかったと、本音も。13時からの開業式に続き、14時からテープカットと出発式。そして、その後がすごい！戦後初？と思われる、瞬間トランジットモール！電車は無料お試し乗車の客を乗せるために、見物客でごった返す大手町モールを、誘導員付きながらも人々をかき分けて“大手町モール駅”まで進みました。

日本は異常なほど過保護な国で、トラジモは許可が下りそうに無いようですね。式後は、22時まで、環状線のみ無料運行（乗降駅制限あり）されました。

翌24日（木）からは正式営業。まだ暗い富山駅前駅を6時10分に発車する一番電車が20名ばかりの客を乗せて既存の路線を通り、丸の内駅に。そこから新線である環状線に入ります。揺れも騒音もほとんど無く、実に快適。2周目、外も明るくなり、改めて感動！今まで徒歩や自動車でしか走った事のない通りを、電車で走る……。何とも不思議な感覚でした。

今、2周目と書きましたが、何周しても200円。200円で何周したか、記録を作るのも面白いかも知れませんね（笑）。また、既存の市電と、丸の内駅と西町駅（環状線はグランドプラザ前駅）で乗り継ぐ場合は、申し出れば乗継券がもらえます。現在、ライトレールで使われている電子カードも近いうちに市電側にも整備され、相互利用される予定です。

何はともあれ、富山市電・環状線は、無事に開業しました。沿線の商店もいろいろな企画を行い、にぎわいを作りたいと張り切っています。天気の良い日、大手モールは、手頃で良い散策場所、デートコースになりそうです。

福井市都市計画マスタープラン(素案)説明会に参加しました！

日 時：平成 21 年 12 月 20 日（日）午前 10 時から 12 時半

場 所；響のホール 6 階会議室

参加者：ROBA：9 名(内田，岸本，佐藤，清水，玉井，堤端，鳥居，林テ、畑) 市：3 名

当日(日曜日)は 2 日前からの降雪で、バスの運行がやや遅れていたようですが、特に交通機関の混乱もなく時間どおりに始まりました。都市マスは全体計画と地域別計画に分かれて作られているので、それに合わせて説明を聞きながら質問や意見交換を行いました。

■都市づくりの理念

福井市が今後も住みよいまちであり続けるために、過度に自動車に依存した生活から脱却し、人の行動の基本である「歩く」視点から暮らしの豊かさを実感できる都市づくりに取り組みます。

暮らしの豊かさを実感できる「歩きたくなる」まち

『暮らしの豊かさを実感できる「歩きたくなる」まち』それは、誇りと愛着を育む水と緑あふれる恵まれた自然環境との調和を基本に、安全に、安心して快適に過ごせる身近な生活空間。そして、新たな出会いや個性が生まれ魅力や活力を高める多様な拠点や空間。人々の行動を誘発し、誰もが自由に行動できる移動の手段。また、これらが、相互に、そして相乗的に機能することで実現されます。

～暮らしの豊かさを支える 4 つの視点～

活力 魅力や活力を高める多様な拠点づくり	生活 安全に、安心して快適に過ごせる身近な生活空間づくり	交流 誰もが自由に行動できる移動の骨格づくり	潤い 誇りと愛着を育む水と緑の空間づくり
--------------------------------	--	----------------------------------	--------------------------------

理念についてこのように書かれています
都市基盤整備により、車の利便性が高い都市構造になっている一方で、その利便性が郊外部の開発を誘導し、中心市街地の相対的な活力の低下や公共交通機関の利用者の減少を招いたともいえる。

このような都市構造は、環境に負荷を与えるだけでなく、高齢者などの車で移動出来ない人々にとって暮らしにくいまちとなることが予想されるため、「身近な地域で歩いて暮らせることを基本とした都市づくりに都市構造を転換していく必要がある

■将来都市像

1 自然環境との共生・調和を基本とした水と緑あふれる都市

- 市街地の拡散抑制と緑豊かな潤い空間の確保
- 農山漁村部の自然環境の保全と活用

2 中心市街地と地域拠点が公共交通ネットワークにより有機的に結ばれた都市

- にぎわい・観光・交流の拠点となる中心市街地の形成
- 日常生活に必要な機能を集約した地域拠点の形成
- 公共交通幹線軸の強化と幹線軸沿いへの都市機能の集積

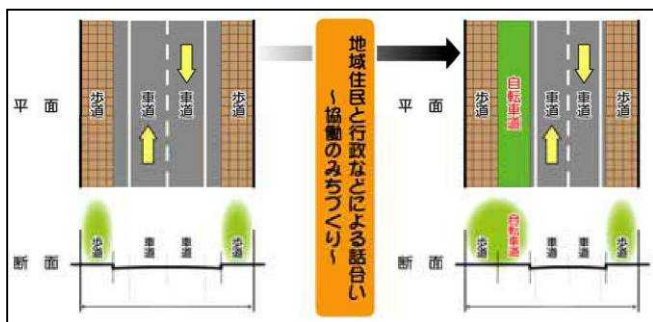
移動の骨格づくりの実現に向けた先導施策として、以下のように書かれています

公共交通の骨格づくりの基本となる既存の鉄軌道の積極的な活用

公共交通の骨格と連携する地域内交通の環境づくり

歩行者・自転車利用者の空間づくり

歩行者・自転車利用者の空間づくり



感想

改訂されたマスタープランでは「歩く」「自転車」「公共交通」について前回より強く表現されていました。(ホジロバです。) そのためか、メンバーからの質問や意見は、とんでもないような意見は出ませんでした。このマスタープランに書かれている内容が、本当に実現できるのか、実現しなければ！といった意見が出てきました。

また、今後は行政主導のまちづくりではなく、地域住民やNPO等と協働で進めていくことが大事であるとのことでしたので、どのように協働できるか楽しみです。

(報告 はたみゆき)





日時 平成21年12月25日(金) 15:00~18:00
場所 名古屋市中部運輸局11階共用会議室
参加者 大学グループ: 6名 コンサルグループ: 3名
事業者(バス・電車・タクシー)グループ: 3名
NPOグループ: 2名 行政: 9名 その他: 3名
中部運輸局: 9名

福井からは、浅沼美忠氏: 福井県立大学准教授
矢部良智氏: 京福バス(株)課長
島洋氏: えちぜん鉄道(株)計画部長
広瀬康男氏: 福井運輸支局首席運輸企画専門官
林照翁: ROBA

【参考】中部運輸局管内には福井県・岐阜県・三重県・静岡県・愛知県の5県があります

世の中はクリスマス一色ですが、仏教徒(?)の私は「そんなの関係ない!」と心の中で叫びながら、内田会長の代理で会議に出席しました。吉田昭二自動車交通部部長からのあいさつに続き、中部運輸局から管内の市町村運営バス(コミュニティバス=コミバス)の実態の報告がありました。

平成20年度では管内市町村の87.6%でコミバスを導入しており、バス輸送人員に占めるコミバスの輸送人数割合では福井県が管内トップで15%(愛知県:12% 岐阜県11% 三重県10% 静岡県:4% 管内平均9%)

運行目的は 高齢者福祉(57%) 交通空白の解消(55%) 廃止代替(42%) 通学手段の確保(42%) 通勤手段の確保(21%) 中心市街地活性化(11%) 観光(12%) その他

マイカー利用増加以外のバス路線維持が困難となる主な原因として7割の事業者が

- ・中心市街地の求心力低下
 - ・コミバスや無料送迎バスとの競合
- を挙げている
- 事業者から見たバス路線の維持・活性化の対策として
- ・割引定期、割引乗車券などのサービス向上
 - ・観光やまちづくりと一体となったPR
 - ・ダイヤの見直し
 - ・ICカードの導入
 - ・新規路線、バス停の解説 など
 - 取り組み事例紹介
 - ・柳バス(岐阜市)
 - ・すまいるバス(福井市)

次に各地域からの市街地コミバスについての事例報告があり、意見交換に入った

- ・津市
- ・豊田市
- ・岡崎市
- ・浜松市
- ・裾野市
- ・岐阜市

加藤博和氏(名古屋大学准教授)「各地域のコミバスの利用状況に関して、利用が多いから良いのか、利用が少なかったら悪いのか。何のために走らせているのかが大事」「利用者を増やすのは事業者の仕事で、地域コーディネータにはソフト的な連携を望みます」《コミバスはザルの福祉。大して利用もない各集落にいちいち立ち寄ったうえ、あまり用事がない公共施設をハシゴするコミバスでは役に立たないし、そのようなバスに頼って生活せざるを得ない利用者もかわいそうである。バスは利用され、ありがたがれるものでなければ、ただの「走る箱」でしかない。<健康とまちづくり No.383より>」

筒井康史氏(三菱UFJ)「中心市街地の商工者にとってコミバスで来る人は、お客様か?」

福井駅前のことを言っているの?どの地域もいっしょ?(照)

牧田博之氏(国際開発コンサル)「人との交流のツールとしてのコミバスの利用も大切」

私からは、配布したROBANEWS92号~93号を使いながら、森田地区文化祭での循環バスの社会実験を説明し、公共交通利用の教育的な側面(バスを待つという行為、バスや電車内での人と交流や社会性の醸成)にも光をあてるべきではないか。と意見を述べた。最後に「地域が必要とする地域公共交通の実現に向けたタクシーのあり方について」運輸局から提起があり、懇親会に移りました。

報告/林 照翁

白山比咩（しらやまひめ）神社に 北鉄石川線で初詣！

昨年秋に末端区間2キロが廃止になった、石川線の廃止された終点にある白山比咩（しらやまひめ）神社に初詣に行った報告をします。この神社は、全国の白山神社の総本山です。

.....

赤白と格闘技をテレビで見て、家で正月を迎えました。外は大雪！ 積雪は40センチくらい？ 0時15分、車で金沢に向かいます。吹雪の富山県内を抜け、金沢に着いて見れば、ほとんど雪無し・・・。 いい天気？ 私は昨年と同じ、野町1時38分発に、次の西泉駅にパーク&何とかし、電車に乗りました。やってきた電車はガラガラ！ 何てこった・・・。

電車はそのまま、特別に客を増やす事無く、“終点”の鶴来駅に。 昨年、同じ列車で、かなり込んでいて150人位の乗車が、今年は30人程度？ 初詣帰りの客が乗っている、すれ違いの対向2列車も昨年のラッシュ並から、全員ゆったり着席状態に激減！ ため息・・・。

予想以上の悪さに、がっかりすると同時に、昨年、地元行政などに協議会の立ち上げを言ってきましたが、話し合いすら持たれず、ザマー見ると頭の片隅で思ってしまう自分がなさけなくもありました。電車の車内では、並行して走る、旧国道157号線を見ます。昨年は、道法寺踏切の少し鶴来寄りから渋滞していた車の列が、今年は全く見られません。どうした事か・・・？ 鶴来駅に到着すると、ほとんどの客が、駅前に待機している初詣バスに乗り換えませす。昨年までは、満員の客を乗せたまま、2キロ先の神社前まで行っていた訳です。

さて、代替バスは、南行一方通行に規制された旧国道157号線山側道の右車線を快適に走ります。通常車線はさすが2キロ程度の渋滞でした。バスの車掌は鉄道部長さん。天気予報で1メートル積もると言っていたから客が来なかったと冗談交じりに言っておられましたが、真相は・・・。

バスは、神社上の境内前で下車出来ますが、あえて表参道前まで乗車。昨年は賑わっていた加賀一の宮駅前の表参道も、ガラ～ン・・・。参道の坂を登り、境内に着いてみて、さらにびっくり！ 境内も昨年の賑わいはなく、ガラ～ン・・・。 全く順番待ちをする事無くお参りが出来ました。30分近く待った昨年とは大違いです。境内前の上の駐車場は、一応満車。 渋滞の長さは昨年と比べるとかなり短いのですが、駐車場の容量は昨年と同じで、したがって、境内にいる自動車で来られた参拝客は昨年と同じはずです。

でも、境内がガラガラと言う事は、30分間隔で到着していた各150～200人の電車の客が激減した影響が大きいのでしょうか？ 私の説明の仕方が悪いと思いますが、言いたい事が、お分かりでしょうか？

参拝を終え、表参道下のおはぎやさんで、ご主人とお話しもしました。廃止以来、最悪の状況の様です。また、帰りの代替バス時刻を聞くと、分からないとの事。商売をしていながら、何で時刻くらい・・・と思いましたが、実際、帰りのバス時刻は掲示されておらず、係員に聞くと、鶴来駅の電車の時刻の10分前くらいに適当に出発させているとの事。これでは乗客も不安だし、ストレスもたまります。来年からは利用しないでしょうね。

帰りの電車は、もちろんガラガラ。 一生懸命働いてくれている金沢工大生のバイト氏がむなしく見えてしまいます。この状態では、来年からの深夜運転はありえないと思います。

天候は、昨年より良い状態ではあります。 この参拝客の激減は、今回だけを見て、一の宮線の廃止が影響しているとは一概には言えませんが、電車が廃止になると、車の客も来なくなる・・・を含め、岐阜の谷汲山と同じ事が起こっている様な気がしてなりません。ザマー見ろでは済まされない気がします。

報告 / 善光 孝



作 / 漆寄 耕次

みゆきちゃんのおでかけ日記 part1

はじめに

企画を練りに練って...、温めはじめてはや1年。ようやく「ゆうじんの部屋 書籍紹介」「照ちゃんの気になる風景」「友ちゃんの新企画につづく新しい企画にこぎ着けることができました。企画内容は照ちゃんの気になる風景と似ていますが、大目に見ていただくことにして、旅日記をはじめようと思います。今後とも宜しくお願いします。そーいえば、路面ライダーが始まる前は「ガンバレみゆきちゃん」という漫画だったのを覚えていますか？



2007年5月生まれのキキ

さて、この猫はどこの猫でしょうか！



「たま駅長!？」

パット見はかなり似ていますが、たま駅長ではありません。わたくし畑が飼っている猫のキキです。たま駅長を見た時は正直おどろきました。“あれ～～！キキにそっくり...”と。毛の配色具合が似ているんだもの。飼い主もオドロキです。



2007年1月5日駅長就任 たま駅長

出典:
フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

しかし、よく見ると、黒い毛の模様や鼻の肌の色が違っていました。それから、たま駅長はおしとやかな熟女ですが、キキはおてんばな少女です。貫禄がちがいますね！

たま駅長がテレビで流れた時、偶然にも家族みんなが、それぞれ違う場所でテレビを見ていました。夕食は勿論「たま駅長とキキ」の話題で大盛況。たま駅長の執行役員のお祝いを兼ねて、便乗記事を書きました。

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「みゆきちゃんの連載が始まりました。ネタ不足でしたのでグッドタイミングです！」

内田(発行責任者)

「みなさ～ん！ROBANEWSにどんどん投稿して下さいさあ～い！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>